

事業報告

〔自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日〕

I 会社の現況に関する事項

1 事業の経過及びその成果

景気は、緩やかに回復しております。先行きにつきましては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあり、緩やかな回復が続くことが期待されます。ただし、世界的な金融引き締め等が続く中、海外景気の下振れが景気を下押しするリスクとなっております。また、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響に十分注意する必要があると認識されます。

このような中、当ホールにおきましては、令和2年度から続いていた新型コロナウイルス感染症の影響も令和4年度には、公演数、動員数、売上高等で落ち着きを見せ、堅調に推移していた令和元年度とほぼ同水準となっております。今後、経営を取り巻く環境の変化に十分に留意する必要があると認識しております。

当ホールは、開業後40年目を迎え、一層の安全性、快適性の向上を図ります観点から、令和4年の1月から3月には全面休業して照明のLED化工事や特高設備・低電圧幹線設備更新工事など大規模改修工事を実施しました。引き続き、施設・設備の適切な保守点検や改修、消防訓練等を実施するなど、安全管理対策に取り組んでまいります。

アリーナの稼働日数は330日(本番日数210日)、稼働率90.4%となり、前事業年度の稼働日数223日(本番日数137日)、稼働率72.6%を大幅に上回りました。事業収入も22億82百万円と、前事業年度(15億7百万円)に比し大幅な増収となり、これに広告料収入等の関連事業収

入 1 億 1 百万円（前事業年度 55 百万円）を加えた総売上高は 23 億 84 百万円と、前事業年度（15 億 63 百万円）に比し 52.5%の増となりました。

一方、売上原価は、稼働日数の増加に伴う催物運営委託費等の増加により、11 億 65 百万円と前事業年度（10 億 83 百万円）を上回り、販売費及び一般管理費の 83 百万円と合わせた経費合計は 12 億 48 百万円と、前事業年度（11 億 83 百万円）を 5.5%上回りました。

この結果、当事業年度の営業利益は 11 億 36 百万円となり、法人税等を差し引いた当期純利益は 7 億 46 百万円となりました。